

別紙標準様式（第6条関係）

会議録

会議の名称	第2回 禁野小学校設計施工（DB）事業者選定審査会
開催日時	令和4年4月18日（月） 開始時刻 10時 00分 終了時刻 16時 00分
開催場所	市役所別館4階 第3・4委員会室
出席者	会長：加嶋章博委員、副会長：酒井恵子委員 委員：今西義行委員、大橋巧委員、岸田陽子委員
欠席者	なし
案件名	1. 開会 2. 諮問 3. プレゼンテーション及び質疑応答 4. 提案審査 5. その他
提出された資料等の名称	資料1 提案書類 資料2 加点審査一覧表 参考資料1 諮問書（写） 参考資料2 禁野小学校設計施工（DB）事業者選定審査会に係る公開プレゼンテーション実施要領 参考資料3 禁野小学校設計施工（DB）事業者選定審査会に係る公開プレゼンテーション傍聴要領
決定事項	禁野小学校設計施工（DB）事業者の選定について諮問を受け、提案内容についてヒアリングを踏まえた提案審査を行った。次回の審査会では、落札候補者の選定及び審査講評（案）について審査を行う。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	一部非公開 枚方市情報公開条例第5条第6号及び第7号に該当するため
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	事業者選定後に公表
傍聴者の数	14人
所管部署（事務局）	総務部 契約課、都市整備部 施設整備室 建築課

審 議 内 容

< 1. 開会 >

会 長：ただ今より、第2回禁野小学校設計施工（DB）事業者選定審査会を開催いたします。本日は、プレゼンテーション及び質疑応答を公開し、その後の審議については非公開で行いますので、よろしくお願いいたします。

今年の春に中宮北小学校と高陵小学校が統合され、新しく禁野小学校が開校されました。中宮北小学校と高陵小学校のそれぞれの校歌の歌詞には、禁野台という平安時代からの歴史的な地名が歌われており、その禁野台という言葉が、新しい禁野小学校の校歌の中にも登場しております。両校とも40年、50年以上という長い歴史の中で、多くの卒業生を輩出されており、本日参加された市民の皆様を始め、関心が高い事業になっていることと存じています。本日は、複数の提案者様からこの歴史ある場所への学び舎の提案をいただいております。本日出席された皆様と共に、学び舎の案を拝見し、審査会メンバー全員で力を合わせて、より良い学び舎選びを実施したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

なお、事務局については会議録の作成にあたりまして、会議内容の録音を認めます。また、撮影・録画を認めます。それでは、事務局から委員の出席状況と資料の確認をお願いいたします。

事務局：委員の出席状況のご報告に先立ち、令和4年度人事異動に伴いまして、前回から変更になった職員について紹介をさせていただきます。都市整備部次長の中村です。設備課課長の柴田です。建築課課長代理の水阪です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、委員の出席状況について、ご報告いたします。本審査会の委員総数は、5名です。本日は5名の委員にご出席いただいておりますので、枚方市附属機関条例第5条2項により会議が成立していることをご報告いたします。続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。資料は、次第、資料1から資料2、参考資料1～3となっています。

< 2. 諮問 >

事務局：資料等の確認が済みしましたので、次第2の諮問をさせていただきます。諮問につきましては、都市整備部長の山中から加嶋会長に諮問書をお渡しいたします。委員の皆様におかれましては、参考資料1として、諮問書（写）をご覧ください。

（ 諮 問 ）

＜ 3. プレゼンテーション及び質疑応答＞

事務局：続きまして、次第3のプレゼンテーション・質疑応答についてご説明させていただきます。本日は、入札参加者名を伏せた形でプレゼンテーション及び質疑応答を行っていただきます。各社の説明時間を30分以内、質疑応答の時間は20分程度を予定しており、時間の管理は、事務局で行います。説明時間終了の2分前と終了時間にベルを鳴らして時間をお知らせします。

会 長：それでは案件に移ります。はじめに提案書についてプレゼンテーションを受け、その後質疑応答を行いたいと思います。それでは、Iグループの方、ご入室をよろしく願いいたします。

事務局：説明時間は30分以内でお願いします。終了2分前と終了時間に事務局より合図しますので説明を終えてください。審査は匿名で行いますので、社名などがわからないよう注意してください。それではお願いいたします。

Iグループ：(提案書に基づく説明)

会 長：本日はきめ細やかな説明をしていただきありがとうございました。早速ですが質問に入らせていただきます。ご提案いただいた内容の特徴としては、建築計画としてロの字型の中庭や教室すべてを敷地南面に配置していますが、この2点の利点を教えてください。

Iグループ：ロの字型中庭の設計実績は多くあります。当該地は風が強いため外部空間ではあるが中庭で風が来ない場所を作ることによって子供たちが校庭まで行かなくても10分間の休憩時間に上履きのまま外出できるので使い勝手がよいと考えます。またステージを設けており音楽会や発表会などの様々な催しにも活用できますし、中庭を囲う廊下の窓からも見えるのでステージが観客席にもなることで学校の中心となります。それに体育館とフルオープンでつなげることで催しの工夫ができることや校舎内に明るさと風通しが確保できると考えています。今回はできるだけ運動場を確保していくために建物をコンパクトにしましたが、中庭を設けることでコンパクト化の解消にもつなげています。学年クラスターを全て南側にしている大きな理由は、小学校では日当たりが大事だと考え、景色としても関西外国語大学のキャンパスを見渡せることで大学生に対する憧れも生まれます。南側に直接窓を設けると日射の影響があるので、日射抑制のためにバルコニーを設けています。子供達にはバルコニーに出ただけ、朝顔を並べていただくこともできます。小学校では普通教室廻りが生活の中心になるので、自分たちのお城という認識が芽生えてくると思います。また、学年によって東や西へ移動することの偏りがでないように、各学年がどの階を使っても良いようにしています。3フロアに配置しているので、1年と6年、2年と5年、3年と4年などの組み合わせもできますが、学年ごとの独立は確保した計画としています。

委員：本学校ではカーボンニュートラルの実現に向けて ZEB ready を求めています、提案では Low-E 以外はやや抽象的な中身もありますが ZEB ready は 50%削減が必要となるため重要となる技術はどの点なのかお聞かせください。

Iグループ：学校では ZEB ready の到達は難しいと言われており、今まであまり実現されたものは無いと思います。我々は現在、他の小学校でも設計に取り組んでいます。実現化に向けた建築的な要素では、断熱を通常の 2 倍以上の効果がでるように外壁や壁、開口部のガラスの工夫が重要です。また設備関係は空調に温度センサーを付けてエアコンが過剰に効かないようにすることや CO₂ の換気で全熱交換機を設けること、照明は明るさセンサーで自動制御できる設備機器などが考えられます。あわせて自然エネルギーの利用も必要となります。まずは設備でどの程度稼げるのか計算を行い、残りを建物で対応していくことを計算することになります。

委員：ZEB ready の実績はお持ちですか。

Iグループ：現在、他の小学校で設計が進行中のものがあります。

副会長：ご説明の中でキャッチフレーズ的なものがありました、その具体的な中身についてお教えてください。まず「発達段階に合わせた教室の有効性」とはどのような意味でしょうか。2 点目は、「働きやすい職員室」とありますが、どのように働きやすい環境とされているのか。3 点目は「英語教育を促進するような計画」とはどのようなことでしょうかお伺いします。

Iグループ：発達段階に合わせた設えですが、先ほどもお答えしました各学年の自由度を高めることとは相反することになりますが、例えば下階から低学年ということになれば、高さに関して、1 年生と 6 年生では適正な高さが異なるので、水場や収納の高さを変えていく考えです。またオープンスペースの在り方ですが、こちらも低学年と高学年では使い方が異なります。高学年は中学に近づくのでオープンスペースまで授業を広げていくようにするとか、学年をまとめて授業も可能とするためにオープンスペースの作り方と水場やトイレの作り方が学年によって変わっていくため、予め低学年階と高学年階を決めておくほうが良いと考えます。先生が働きやすい環境づくりですが、職員室は出来るだけオープンにして、子供達がいつでも入って来られるようにすることと、職員が子供たちの目から離れてリラックスできることの両方を作ることが大事と考えます。教育委員会の考えにもよりますが、職員だけのラウンジを設けることも可能ですし、特に女性教員の水廻りは重要です。特別な作り方をすることが働きやすい環境につながると考えています。次に英語教育ですが、ただ英語を教えるのではなく、ビジュアルや音楽と絡みながら楽しく英語を学ぶ傾向がありますので、音楽室と連携させるため横に設置しています。また部屋は廊下端にあるので、世界に興味を持っていただけるようなメディアスペースを作ることできると思います。

委員：「地域と共にある学校づくり」とありますが、地域の方が参加していただけるような形が望ましいですが、防犯については二律背反することもありますので、その

点の考えを教えてください。またメンテナンスや換気のために設けているバルコニーの安全性について教えてください。

Iグループ：地域と学校の交流には2点の考えがあります。1点目は休日の地域開放、もう1点は学校運営時間に地域の方を招き入れることです。それぞれの考え方は違いますが、休日の地域開放は、解放する範囲を予め決めておくと割と簡単に区切れますが、学校運営中の地域との交わりについては難しいです。安全上の問題では認識された人だけが入校できるようセキュリティーラインを決めて人を管理する必要があります。その上で、職員の目を分散できるように隠れた場所を作らないことも重要であり、人の動きがよくわかる中庭はかなりの抑止効果は高いと考えます。機械警備には限界がありますので職員の目は重要になります。バルコニーは、折角作っても施錠して子供を出さないということもあるが、今後の運営上の協議で管理可能な範囲で子供を出していただきたいと思います。施設としては手摺や足かがりなどに配慮して計画していきますが、子供を出さないということであれば、点検用バルコニーとしていくことになります。

委員：他事例でも口の字型の実績はあるとのことですが、禁野小学校の特質にあわせて新たに導入された提案はありますか。

Iグループ：今回のポイントは体育館をどこに配置するのかがポイントと考えました。避難所であれば玄関近くに配置することが望ましいですが、体育館はボリュームがあるため、入口付近に配置すると学校全体が見えなくなることや、当該地では西側法面に負担をかけずに建物を軽量化する必要があるため、今回は初めて体育館も含めて口の字型にすることで渡り廊下を設けない設計としています。同時に中庭はインターロッキングにして体育館と一体化にすることで、晴れの日には体育館と一体的につないだお祭りなどもできます。床の養生問題はありますが、東京でも狭小敷地の学校では事例があるので建具にも問題はないです。また体育館や中庭がエントランスともつながることで、別世界を感じてもらえるのも特徴となります。

会長：高陵小学校と中宮北小学校の卒業生にとっても思い出深い卒業記念品が現存しています。両校の卒業記念品の一部を継承することが求められた場合の技術提案は考えられますか。

Iグループ：残されたものを写真で残すことや、学校の方と調整をしてどうしても残したいものを壁に埋め込むことは可能です。特に中宮北小学校は敷地もなくなるため、2つの学校の歴史を年表にして過去の写真を加えることも考えられます。他の学校でも記念品というよりも歴史をみんなで学んでいただくために当初からサイン計画と同様に壁にデザインすることは好評でした。卒業記念品の現物を外部に配置することは可能ですが、全てを残していくのは難しいと思います。体育館にある校歌も新しい校歌になるので、年表などをどこかの壁に作るのが良いと考えます。

会 長：時間となりましたので、質疑応答を終了します。関係者の皆様ありがとうございました。退室をお願いします。

(1者目終了)

会 長：それでは、プレゼンテーション及び質疑応答を再開いたします。Kグループの方、ご入室をよろしくお願いいたします。

事務局：説明時間は30分以内でお願いします。終了2分前と終了時間に事務局より合図しますので説明を終えてください。審査は匿名で行いますので、社名などがわからないよう注意してください。それではお願いします。

Kグループ：(提案書に基づく説明)

会 長：質疑の前に、本日はきめ細やかな計画策定及び丁寧な説明をありがとうございました。では、質疑応答に入らせていただきます。

今回の提案の大きな特徴として、体育館の配置の考え方や、コの字型の中庭、教室クラスターの分散配置といった点があげられると思いますが、様々な考え方がある中で、コの字型の中庭を採用された理由をお伺いいたします。また、雨天時の活動の利便性について、提案の中で避難時の説明はありましたが、日常的な児童の振る舞いに対して配慮した点をお伺いいたします。

Kグループ：コの字型の中庭を提案した理由として、中庭をロの字型で囲む場合、グラウンドを見通す際に不都合が生じると感じました。また、ロの字型の中庭では、管理諸室の配置に圧迫感があります。今回は校舎の配置条件が南側であり、通常とは逆の配置となりますが、それを逆手にとり、中庭を通して玄関へ向かい、そのままグラウンドへも行けるような配置が一番望ましいと考えた結果、コの字型の中庭を採用いたしました。また、雨天時の児童の遊び場については、天の川テラスとあおぞら広場を横断するデッキ通路の下にはそこそこのスペースがあり、体育館脇にもテラスのスペースがあります。遊び方はある程度制限が生じますが、雨天時の活動の場も意識した計画としています。

委 員：禁野小学校については、カーボンニュートラルの実現に向けて **ZEB ready** 達成を求めています。提案の中でも具体的な技術の名称等が出てきましたが、50%削減ということで、高い目標となりますが、目標達成に向けて、一番の主たる技術は何だとお考えでしょうか。加えて、今回プレゼンされた以外に検討された手法があればお聞かせ下さい。また、グラウンドについて、運動会等の催事の際、提案のあったプランでスペース上問題がないのか、お聞かせください。

Kグループ：**ZEB ready** の達成に向けては、基本的には外皮性能と空調を中心とする機器の高効率化を考えています。外皮性能の向上については、建設コストの増加に繋がり

ますが、設備性能との相関関係があるため、どちらも対応する必要があると考えています。ZEB ready の達成はこれまでの経験上、容易なことではありませんが、十分に対応できるよう試算・計画を行い達成いたします。その他の技術提案としては、詳細は決まっていますが、出来るだけ屋内外の空間を繋げていくことで、自然の力を利用し、児童の快適な温熱環境を実現するようなプランを、今までの蓄積から提案していきます。また、グラウンドのスペースについては、イベントの際も十分なスペースがあると考えていますが、利用方法等についてはより細かく提案するべきでした。

副会長：教室のマルチファンクションコアについて、多様なニーズに対応する素晴らしいアイデアである一方で、職員の目が届きにくいスペースが点在してしまうので、児童同士のトラブル等が起こるような懸念もあるのではないのでしょうか。

Kグループ：マルチファンクションコアは児童だけでなく、教員のスペースでもあると考えており、日常の学習生活環境の中で、教員のミーティング等を行うことなども想定しています。空間に死角がない方が勿論望ましいと考えますが、児童にどんな空間として認識されているかが重要であり、教員がいるスペースであるとの認識があれば、児童にも安心感が生じると思われます。

委員：あおぞら広場でボール遊びを行う場合のガラス窓等の安全性はいかがでしょうか。

Kグループ：強化ガラスを使用する予定であり、通常の球技であれば問題ないと認識しています。ただ、窓を開放している場合は、球技を行う時間を指定するなど、運用上の工夫が必要となります。

委員：体育館を2階に配置する理由は何でしょうか。また、他の学校等の受注実績の中で、体育館を2階に配置した事例はありますか。

Kグループ：他の学校等の計画でも体育館を2階に配置した実績はあります。北河内方面の義務教育学校でしたが、その例では、大きな体育館は2階、小さな体育館は1階に配置しました。基本的には、体育館単体で見たときは、体育館は1階にあった方が良く認識しています。しかし、今回の提案では、スペース上の問題があります。また、体育館と繋がり強い地域の施設を1階に配置し、体育館と結ぶことで地域の利用のしやすさを促進します。2階のテラスを繋げることで、危険性を回避しています。また、児童利用の観点では、ほとんどの教室が2階以上にあるので、体育館が2階にあった方が確実に喜ばれます。

会長：教室の配置が各方角に分散配置されていますが、こうした教室配置の利点を教えてください。

Kグループ：普通教室の配置については、状況によってベストな配置が決まってくると考えています。児童がグラウンドで遊ぶ様子が教室から見えるべきだと考えており、北側はグラウンド、南側はあおぞら広場及び関西外国語大学があるため、南側北側を等価の関係にしたいと考えて配置を決めました。また、児童は学年の移り変わりによって各方角の教室に移動します。

会 長：教室配置のユニットは同じ学年で固定するのですか。

Kグループ：思うように学年によって固定できない場合もあると思われますので、北側の連続した2学年ユニット及び多目的室等をバッファとして独立させたいと考えています。

委 員：太陽光と蓄電池の提案がありますが、具体的に何キロワットの機器を想定されていますか。また、災害時の電源供給についてですが、使用先の用途は何を想定されていますか。

Kグループ：計画上、子どもから見える場所に配置することから、体育館の南側に配置することを決めました。その場所で、合理的に載せられる範囲として、14キロとしました。供給先としては、避難所として位置づけされている体育館のコンセントと保安照明、校長室と職員室のコンセントと保安照明に供給します。

委 員：空調への電源供給についてはいかがでしょうか。

Kグループ：外部電源を用いれば可能性はありますが、現在は想定していません。

会 長：それでは時間となりましたので、質疑応答を終了します。ありがとうございました。

(2者目終了)

< 4. 提案審査 >

会 長：審査会を再開します。ここからの審議は非公開となります。会議録の作成にあたりまして会議内容の録音を認めます。

「次第4. 提案審査」ですが、落札候補者選定のための最も重要な審議になりますので、よろしくお願い致します。

それでは事務局から説明をお願いします。

事務局：本日の提案審査は、提案者の提案書類、プレゼンテーションの内容及び質疑応答についてご審議のほどお願いいたします。スクリーンに表示していますのは、本日のプレゼンテーション及び質疑応答を受け、委員の皆様からご提出いただきました資料2の加点審査一覧表について、集約したものです。

プレゼンテーション同様、企業名については伏せた形でK、Iと表記させていただいております。

これから、「技術評価点」の「加点項目」についてご審議をお願いいたします。

事務局といたしましては、加点項目以外の「技術評価点」の「基礎点」及び「価格評価点」については、審議の後に加えたいと思いますので、次回の第3回選定審査会でご報告させていただきたいと考えております。

以上です。

会 長：事務局から説明のあったとおり、「技術評価点」の「基礎点」及び「価格評価点」については審議の後に加える形でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：それでは審査会を再開します。委員の皆様には各者の提案書をもとに仮審査を行っていただいていると思いますが、先ほどのヒアリングで各者の提案内容の詳細や根拠等を質疑で確認いただいたことです。本審査会では各委員の意見や評価は審査会の合議として各提案者の評価を行ってまいりますのでご意見等があれば積極的にご発言をお願いします。それでは、「1. 事業計画の提案に関する事項」の各項目について審査を始めさせていただきます。まず、「(1)本事業への基本的な考え方」の「①目的・基本理念の考え方」についてご意見を伺います。

委員：Kグループは「新しい学校づくり」について真摯に対応しておられ、Iグループは「枚方市の理念」をなぞっておられるという印象を受けましたので、Kグループはより優れていると判断します。

委 員：Kグループは内容を吟味した上で自らの言葉で提案されていると感じたので、Kグループは優れていると考えています。

会 長：それではIグループはC評価、KグループはA評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：次に「②業務推進体制」についてご意見を伺います。

委 員：どちらの提案も要求水準を十分満たしていると考えます。

委 員：どちらも提案内容に不足はないです。

会 長：両グループともに要求水準は満たしていますが、KグループはZEBプランナーの資格を有し、ZEB Readyの実績を保有している点がIグループより優れていることから、IグループはC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「③事業全体のスケジュール管理」についてはいかがですか。

委 員：Kグループ設計期間や工事において具体的な提案があり、Iグループより優れていると判断します。

会 長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：続いて、「2. 設計業務の提案に関する事項」の各項目について審査を進めます。「(1)意匠計画の考え方」の「①全体配置」についてはいかがでしょうか。全体配置は非常に重要な項目です。Iグループは建物がロの字型配置で中庭があり、体育館は淀川側に配置されています。一方、Kグループは建物がコの字型配置で中庭がオープンな形状になっており、体育館が幼稚園側に配置されています。それぞれの配置には妥当性がありますが、この土地の最大の特徴は高台の上にあることだと私は考えており、淀川を展望できる敷地を出来るだけ有効に活用したいというKグループの考え方に強く賛同します。

副会長：ロの字型配置とコの字型配置のどちらも根拠がしっかりと示されており、それぞれ工夫もされていますが、Kグループのコの字型配置の方がメリットは大きいと

判断しています。また、高い壁で囲まれた谷底のような中庭よりも片方が開放されているコの字型の方が、子供たちは心理的に伸び伸び出来るので好ましいです。

会長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会長：「②動線計画・セキュリティ計画」についてはいかがですか。

委員：子どもの安全に配慮し歩車を完全に分離している点と低層の3階建てを採用することで動線計画が有利な点を考慮したKグループをより高く評価します。

会長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会長：次の「③教室部門」についてはどうでしょうか。両者は教室配置に大きな違いがあります。Iグループは普通教室がすべて南面配置、Kグループは3つの普通教室をひとまとまりとして北側も分散配置する提案となっています。大学キャンパスがある南側、展望の開けた西側、グラウンドがある北側といった可能性豊かな敷地をどう扱うかがポイントだと私は考えており、教室を一律に南面配置とするIグループの考え方よりも、分散配置によって展望とグラウンドへの視線を確保するKグループの提案に強く賛同いたします。

副会長：教員が授業の度に職員室から上り下りすること、児童が体育の授業の度に体育館へ上り下りすることを考えると、3階建てと4階建ての差は大きく、Iグループに比べてKグループの提案が優れています。

会長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会長：次の「④体育館部門」はいかがでしょう。

副会長：災害時に体育館の1階と2階の両方を利用できるという点で、Kグループの提案には魅力があります。1階の留守家庭児童会が雨天時に体育館を使用できるのもメリットです。1階が教室ではなくリビングエリアなので、2階の体育館と一体化するメリットは大きいです。

会長：Iグループが提案されている体育館と中庭の連続性は、使い勝手が良く魅力的ですが、敷地西側を体育館が占めてしまうことにより、この土地ならではの展望の機会を減少させてしまう点は大きなデメリットです。また体育館が正門から遠くなることも好ましくありません。今回の敷地条件ではKグループが提案されている東側配置の方がメリットは大きく、2階利用の使いにくさについては、大階段や教室との連続性を担保する渡り廊下など、細やかな設計により解消されていると考えます。併せて、非常時における底下の連続した空間の利用方法として炊き出しを提案されている点も評価して、IグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「⑤管理部門」についてはどうでしょうか。私は両方の提案内容を評価したいと考えますが、職員室と正門前守衛室との監視の連携や、問題を抱えた児童のための保健室周辺レイアウトなど、細やかな配慮を行っているKグループをより評価します。

副会長：校内で何か問題が発生した際に4階建ては職員室から駆け付けるのに時間が掛かるという点で、3階建てのKグループを1段階上に評価してはどうですか。

会 長：それではIグループをC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「⑥その他」についてはいかがでしょうか。

委 員：Kグループは玄関の顔となる、あおぞら広場や眺望を活かした天の川テラス、玄関を中心に展開される四万十市産の木材活用の具体的な提案などIグループに比べてKグループの提案はより優れています。

会 長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「⑦屋外運動場・外構等」はいかがですか。

委 員：Iグループは広いグラウンド、Kグループはグラウンドと中庭の臨機応変な使い分けを提案されており、どちらも良さがあります。

会 長：Kグループは玄関周りの車道と歩道の動線計画が非常に細やかで、安全面と機能面についてよく検討されており、バスの乗り降りも機能的で優れています。そのためIグループはC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「⑧仕上計画・ユニバーサルデザイン」はどうでしょうか。

副会長：Kグループは外壁に卒業記念作品の一部を埋め込む提案をされており、Iグループも同様の提案をされているので、仕上計画についてはどちらも評価します。特にユニバーサルデザインについては、Kグループはエレベーターを支援教室の近くに配置するなどの配慮が見られるので評価するべきと考えます。

会 長：Iグループは支援教室を外部にアクセスし易い1階の正門近くに配置しており、丁寧な計画をされています。一方、Kグループは支援教室が2階にありますが、階段とエレベーターの配置がきちんと計画されており、加えて展望スペースへ同じフロアでアクセス可能な点が優れていると考えますので、IグループはC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：続いて、「(2)周辺環境・地球環境への配慮」の「①地域性・景観性への配慮」についてはいかがでしょうか。

副会長：Kグループについては、建物周りに鎮守の森のような緑を配置している点、幼稚園への圧迫感を減らすために体育館の屋根の高さを抑えている点、メタセコイアなど既存の植栽を利用する点を高く評価します。

会 長：高陵小学校卒業生にとって思い出深いであろう幼稚園側の立派な木々について、Kグループが保存を謳っておられる点は非常に評価したいです。

委 員：幼稚園側に与える威圧感が軽減されている点では、3階建て校舎を採用したKグループを評価します。

会 長：各委員のご意見からKグループの評価は非常に高いため、KグループはA評価として、IグループはC評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「②環境保全・環境負荷低減への配慮」はどうでしょうか。

委 員：Kグループの提案書にはZ E Bプランナー資格の保有が明記されており、固有名詞の具体的技術が記載されています。一方、Iグループの提案書は少し抽象的で不安を覚える部分があり、他の自治体において現在実績を積み重ねている最中とのことですが、実績はKグループの方が上という印象です。

会 長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：次に、「(3)構造計画の考え方」の「①耐震安全性の確保」はいかがでしょう。IグループもKグループも法規・構造・耐力性について条件を満足しており、良く練られた計画です。斜面側と平地側それぞれの土地の条件に合わせて、異なる構造形式が採用されています。

委 員：Iグループの提案によると、斜面側に若干危険性があるため軽い体育館を配置したとのことですが、抜本的な問題点ではなくどちらに配置しても大差無いと考えます。

会 長：耐震安全性はどちらの方が不安だといった差の付くようなものではなく、両グループに若干の違いはあってもそれぞれ構造計画の検討が行われているので、同じ評価として、Iグループ、Kグループ共にB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：次に「②被害軽減対策」についてはいかがでしょうか。両グループ共に構造部・非構造部への被害軽減対策がなされており、非耐力壁への構造スリット設置やクラック対策の実施など要求水準書を上回る努力をされているので、どちらも同じ評価で良いと思いますので、IグループとKグループはC評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：次に「(4)設備計画の考え方」の「①更新性・メンテナンス性の配慮」はどうですか。

委 員：KグループはB EMSをご提案されており、ライフサイクルコストの削減効果も評価ポイントとなります。Iグループは日常の感染予防策としてCO₂濃度測定による換気量調節を提案されていますが、省エネ対策ならともかく感染予防策としては換気量を大きくすべきなので少し疑問点があります。

会 長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「②利便性・快適性の向上に向けた工夫」はいかがですか。

副会長：Kグループは教室とオープンスペースの一体利用を考慮した空調計画となっており、学年単位の活動が行いやすいという点を評価します。

会 長：私も学習環境の快適性と利便性の追求という点についても評価できると考えていますので、IグループをC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：続いて、「(5)防災安全計画の考え方」の「①災害時等の施設安全性の確保」はいかがですか。それぞれの提案では教室と体育館の配置が大きく異なりますが、どちらも避難動線を非常に丁寧に検討されていたので、IグループとKグループは共にB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：次の「②避難所利用を想定した施設計画」はどうでしょうか。

副会長：1階と2階を一体利用できる体育館は非常に便利だと考えますので、Kグループを高く評価します。

委 員：災害時の電源についてはIグループが発電機から、Kグループが外部からの供給となっています。どちらかと言えば発電機がある方が良いですが、今回の施設では全体の施設計画を優先したいと考えているためKグループを評価します。

会 長：それではIグループはC評価、KグループはB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：次に「3・建設工事の提案に関する事項」の審査に移ります。「(1)建設**工事**全般」の「①スケジュール」についてはいかがでしょうか。

副会長：周辺への配慮という点で、土日祝の作業を休止すると表明しておられるKグループを高く評価いたします。

委 員：私も土日祝の作業休止についてKグループを評価いたします。また、ZEBの申請スケジュールをきちんと考慮されている点についても信頼できると考えます。

会 長：どちらのグループも学校建築についての多くの実績と経験をもとに工程を組んでおられるようですし、遅延対策も細かく示しておられるので今回の要求水準以上は満たしています。加えて、KグループはZEBの申請と許可後の工事について細やかなスケジュール提案をされている点は高く評価いたします。そのためIグループはC評価、KグループはB評価でいかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：「②安全性や周辺住民等への配慮」はいかがですか。双方とも幼稚園を始めとする近隣への具体的な対策を示しておられましたのでIグループ、Kグループ共にB評価でよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：以上で各者の全ての提案の審査を行いました。全体を通して確認しておきたい点や言い忘れた点などございますでしょうか。

副会長：感想にはなりますが、今回提案いただいた二者の案では、建物の配置がコの字型かコの字型か、体育館の位置が西側か東側か、建物が3階建てか4階建てかという大きな違いがありましたが、Iグループには従来の学校らしい要素を取り入れられた学校という印象を持ちました。一方Kグループにはかなり新しい考え方を取り入れた学校という印象を持ちました。

会 長：今回の審査基準では要求水準を満たせばD評価、要求水準以上の提案にはC以上として評価しました。その中で両グループには非常に丁寧でクオリティーが高く、この土地の特性が反映されている提案を行って頂きましたので加点評価に値するものばかりでした。それでは本審査会として各者の提案を審査した結果については確定してよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

会 長：それでは、次回選定審査会までに事務局の方で点数の集計をお願いします。そろそろ時間となりました。最後になりますが、「次第5.その他」として、事務局から何かありますか。

< 5. その他 >

事務局：資料1につきましては、各者の知的財産を保護する観点から、落札候補者以外の提案内容は非公表といたします。そのため、資料の取り扱いには十分ご配慮いただきますようお願いいたします。第3回の審査会では落札候補者選定の他、審査講評案についても審議をお願いしたいと考えています。また、第3回の審査会終了後にはご不要な資料は事務局で引き取らせていただきますのでよろしくお願いいたします。最後に本日の会議録につきましては、事務局で案を作成したうえで、各委員の皆様にご確認いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

会 長：次回は、4月28日の15時30分から、枚方市役所別館4階第3委員会室で開催となります。それでは第2回禁野小学校設計施工（DB）事業者選定審査会を終了いたします。